

コミュニケーション

No.87
2014.3月号



Contents

- P2 園長あいさつ／こんにちは!あかちゃん
- P3 移動動物の紹介／飼育動物数／訃報
- P4・5 特集1 **大森山動物園開園40周年を終えて**
- P6・7 特集2 **大森山動物園の挑戦**
- P8・9 飼育レポート
- P9 動物病院から
- P10 3園館の連携について／「どうぶつ学ぼーど」について
- P10・11 イベントレポート
- P12 飼育日誌／お客さまの声／かたばた通信

[表紙写真]

昨年6月に誕生し、8年ぶりに順調に育ったレッサーパンダのメス「ゆり」。未永く愛される名前を付けてもらおうと来園者から愛称を募集し、決定しました。

園長あいさつ

園長 小松 守



大森山動物園は「動物と語らう森」をテーマに掲げています。人と動物の距離を縮め、日本人が抱く動物観、自然観を意識しながら、人も動物も同じ「いのち」を持つ生き物であることを感じ取ってもらおうと考えているからです。こうした姿勢を貫きつつ大森山動物園の特徴的な色合いを探り続けています。昨年末、ベトナムのサイゴン動物園を訪れました。同じ東洋なのでしょう、そこにある種同じような空気が流れていました。

さて、昨年は大森山動物園の開園40周年の節目の年

でした。大森山公園全体も活かしながら様々なイベントでこれを祝うことができましたが、そのイベントづくりを動物園応援会ははじめ、市民や大学生の力を集結し立ち上げられた40周年実行委員会が主導して行われたことに大きな意義があったように思います。新たなステージへステップアップした年だったと言えます。

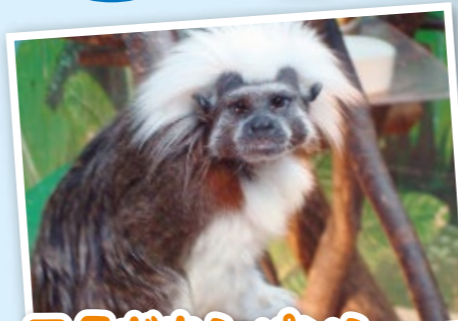
2014年の目標は発信力アップです。園のスタッフがお客様へのおもてなしとしてここまで創り上げてきた「まんまタイム」や動物体験などのサービスをさらにブラッシュアップし、新たな賑わいづくりを進め、そのことで園の教育力も高めていきたいものです。

その総和が必ず発信力アップにつながることを期待しながら。

大森山動物園の移動動物たち

ヨロシクね!

仲間入りした動物たち



ワタボウシパンシエ

10月10日、石川県のいしかわ動物園からワタボウシパンシエのコロナ(メス)がやって来ました。ランディのお嫁さんとして、繁殖を目的に借り受けしたものです。2頭は年の差カップルですが、年上のランディが振り回されるほどのおてんばさんのようです。早く赤ちゃんが生まれるといいですね。

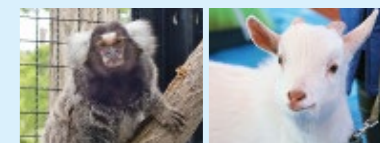


コールドック

11月27日、東京都の井の頭自然文化園からコールドックのオス1羽メス2羽がやって来ました。ふれあい広場には以前から1羽のコールドックがいましたが、数が増え、なおいっそう賑やかになりそうです。

げんきでね!

大森山を後にした動物たち



コモンマーモセット シバヤギ

3月23日、コモンマーモセットの父ちゃんとシバヤギ3頭(オス1メス2)が、繁殖を目的に茨城県の日立市かみね動物園に旅立ちました。父ちゃんもシバヤギも向こうでは、早速、繁殖に貢献したようです。

クマタカ

9月12日、クマタカの旭(メス)が北海道の釧路市動物園に、繁殖を目的に移動しました。釧路市動物園ではクマタカの繁殖に力を入れていて、希少なクマタカの種保存に期待がかかります。



この他、ケヅメリクガメ4頭とエリマキキツネザルが他の動物園や水族館に旅立ちました。



こんにちは! あかちゃん

前回の「こんにちは! 赤ちゃん」から1年近く間が開いてしまいましたが、記念すべき開園40周年の1年間に誕生した動物の赤ちゃんを紹介します。



フンボルトペンギン

3月下旬にフンボルトペンギンのヒナが生まれています。4羽が無事に成長し、そのうち2羽を人工育雛しました。ここ2年で6羽のペンギンが人の手で育てられていて、これらのペンギンが動物パレードに参加するなど、お客さまが近い距離からご覧になれます。換羽前のヒナペンギンは大人のペンギンと模様が違うので、すぐわかります。



ラマ

5月16日、2年ぶりにラマの赤ちゃんが生まれました。名前はアンズ(メス)です。生まれてから1時間半ほどで立ち上がりました。今は、母親のアンナと同じ展示場で、飼育担当者と馴致トレーニングを頑張っています。動物パレードの参加もあるかもしれません。



シバヤギ

6月24日にシバヤギにオスとメスの赤ちゃんが生まれました。雄の子どもはお父さんである信濃丞の2番目の息子ということで、丞次(じょうじ)と名付けられました。時に、イギリスでウィリアム王子に子どもが生まれ、名前がこれまたジョージ。何かの縁を感じます。ちなみにメスの子どもはライラです。



アカカンガルー

10月9日、2年ぶりにアカカンガルーの赤ちゃんが袋から顔を出しました。名前はミロ(メス)です。平成25年の通常開園中はなかなかママコ母さんの袋から出てくることはありませんでしたが、12月の下旬からだんだん袋の外に出てくるようになりました。他のカンガルーより一回り小さいかわいらしい姿をご覧ください。



ホンドキツネ

11月28日、埼玉県の東武動物公園からホンドキツネのオスが来ました。メスのアズミとも無事に同居ができました。少し臆病ですが、元気なキツネです。



アカカンガルー

12月18日、鹿児島県の平川動物公園から3頭のアカカンガルーのメスがやって来ました。昨年ではデニーロとモモコが死んで、寂しくなったカンガルー展示場ですが、新たに生まれたミロとこの3頭が盛り上げてくれそうです。

この他、シロフクロウ、ミーアキャット、プレーリードッグ等が新たに仲間入りしました。

飼育動物数		2013年12月末現在	
類	種数	点数	
哺乳類	51種	331点	
鳥類	40種	188点	
は虫類	12種	44点	
両生類	2種	3点	
魚類	3種	90点	
無脊椎動物	1種	16点	
計	109種	672点	

訃報

忘れないよ...



フンボルトペンギン 右黄黄/メス 30歳

1996年に広島県の宮島水族館から来園しました。とても人なつっこく、ちょっと小柄なペンギンで、担当者や獣医からかわいがられました。3月29日、新しく生まれたヒナたちと入れ替わるように静かに旅立ちました。



ポニー マーブル(左)/メス 推定23歳 クリン(右)/オス 21歳

2頭は1997年のふれあいランド完成に伴い、大森山動物園にやって来ました。長い間、馬舎の住人としてお客さまにも愛されました。ここ数年は2頭とも病気がちで、治療を続けてきましたが、マーブルは5月22日に、クリンは9月25日に亡くなりました。



ヨツユビハリネズミ ハリー/オス 年齢不明

2009年の年末に秋田県の鹿水族館GAOからやって来たヨツユビハリネズミのハリーです。アルビノ個体で全身が白く、眼の赤いハリネズミでした。ヤマアラシの隣で展示したり、最近ではふれあいランドやミルヴェ館でお客さまとのふれあい等もありました。



ベンガルヤマネコ ダイア/メス 17歳

2000年7月27日に東京都の恩賜上野動物園から繁殖を目的に借り受けた個体です。ガル(オス)との間に何頭も子どもをもうけました。とてもきれいな個体でした。晩年は猛獣舎内のダイヤ専用の個室でのんびりと過ごしていました。

この他、カナダヤマアラシやモモアカノスリ、ミーアキャットなどが亡くなりました。

この他、1年に2回も出産したコモンマーモセット、3羽のヒナが孵ったコクチョウ等があります。また、久しぶりに無事に成長したレッサーバードやフラミンゴの赤ちゃん、母親の育児放棄にもめげずに群入りを目指すニホンザルの赤ちゃんについては、飼育レポートをご覧ください。



大館市出身、横浜育ちのジャズシンガー“meg”と盛岡市出身ジャズボーカリスト北田一トリオによる迫力あるステージ。(8月31日)



秋田大学学生グループの協力により作成設置されたペットボトルランタン。(8月31日)



大森山グリーン広場に設置されたバルーンアーチ。(8月31日)



広面小学校児童によるヤートセ演舞。(9月1日)



秋田市出身のシンガー渡部絢也によるミニライブ。(9月1日)



大森山動物園の夢と未来を語る標語・作文表彰式で、作品を発表する最優秀受賞者のひとり、明徳小学校 ひろのりゅうのすけさん(9月1日)

大森山動物園 開園40周年を終えて

特集1

企画広報担当 主席主査 八柳 泰輔

大森山動物園は、実にたくさんの企業、団体等との「つながり」を保ちながら運営されています。秋田市役所内の他課所室との連携、交流はもちろんですが、小学校から大学までの教育界全体との教育的活動、警察との児童立ち直り活動、報道各社や出版各社への情報提供、トップスポーツチームとの協働、社会奉仕団体や民間企業との協働による地域の賑わい創出に関する活動や地域経済活性化に関する活動など、ひとつひとつ数えたら誌面には書ききれないほどの様々な「つながり」を保っています。

そのような「つながり」を構築し保つていけることができるのは、動物園が観光施設であり教育的施設であり環境保全施設であるなど、様々な「顔」を持っていて、多種多様な切り口から、たくさんの方々に必要とされ、活用されているからだと思っています。そして、この「つながり」こそ、動物園を発展させてきた原動力となっているのではないのでしょうか。



ニューリーダーズネットワークによる大森山動物園40周年記念植樹。(4月14日)



40周年を記念してサル山に「40」の文字をあしらった「あそび木」を設置。(4月26日)



大森山動物園の40周年を記念して秋田公立美術工芸短期大学学生によりデザインされたイメージキャラクター「オモリン」のお披露目と秋田銀行からの「のぼり」の寄贈式。(7月20日)



昨年、大森山動物園は開園40周年を迎え、年間を通じた様々なイベントの他、開園記念日である9月1日には「開園40周年を祝う会」その前日である8月31日には大森山公園全体

を活用した「開園40周年を祝う会前日前夜祭」を行いました。

8月31日の前日前夜祭は、「森と動物の音楽祭」と題して、大森山公園グリーン広場に仮設ステージを設けた大がかりなものでしたが、午前中はあいにくの雨にたたられ、予定されていたわらび座による和太鼓と笛によるアトラクションと地元小学校、中学校、高校によるプラスバンド演奏は中止せざるを得ませんでした。夕方からの秋田ゆかりのアーティストたちによるジャズライブは予定通り開催され、不安定な天候にもかかわらず、たくさんの方に来場していただいたことについて、本当にうれしく思っております。

また、9月1日の「開園40周年を祝う会」には、地元小学校など教育界や音楽界、報道関係からの協力の他、企業、団体、県議会議員、市議会議員など、各界の代表者に快く出席していただき、盛大に開催することができました。

今回の40周年記念事業は、実行委員会を設立し、音楽関係部会、飲食部会、式典関係部会、未来を語る部会など、合計8部会で構成され、それぞれの部会が、知恵を出し合い、連携をとりながら準備を進めました。これは、動物園と各界の「つながり」があってこそできたことだったと思っております。10年前の開園30周年記念時の記録を見る限り、この10年で、さらに動物園が各界から注目され飛躍的に成長していることに確信を持つことができます。

40年という節目を迎え、次のステップに踏み出した大森山動物園が今やらなければいけないことは、次の世代へと確実に大森山動物園を、残し、つなぎ、発展させることではないのでしょうか。

今の大森山動物園を、支え、創り上げてきた主な要因は、飼育展示担当の日々の地道な努力と「俺はこうしたい!」「私をもっとこうしたい!」という高いモチベーションにあると言っても過言ではありません。そして、これは、将来に向けて、もっと、すてきな動物園を創り出す「人」であり「心」です。

震災後、心の時代といわれる昨今、社会からの動物園へのニーズは増えるような気がします。もしかしたら、この先、今では考えも及ばないようなニーズがあるかもしれません。ただ、どのような時代背景においても、「動物園が動物園で有り続ける」ことが肝要であり動物園活動のベースになるものです。「動物園が動物園で有り続ける」こと、「そこに行けば光り輝く動物たちがいる」こと、これを維持して実現させ続けることは簡単なことではありません。

動物園は、「人」により創られ、「人」との「つながり」により保たれています。そして動物園には「心」があります。見て欲しい、来て欲しいと思う者の「心」と、動物園に来て、例えば、初めて本物のゾウを見た子どもに芽生えた「心」です。その「心」と「心」を大切に育むことが、より良い動物園を創ることにつながり、たくさんの方々との「つながり」を保つことにつながるのではないのでしょうか。

今年の夏竣工予定のビジターセンター建設のため、大森山動物園の正面ゲートが取り壊され、連日、吹雪の中大きな重機が寒さをもとめせず動いています。今年の初夏、大森山が新緑の美しい緑につつまれる頃には、新しい大森山動物園の「かお」が完成し、皆さまをお迎えする予定です。この施設は、飲食店や売店の他、大森山公園に来た方ならどなたでも利用できる室内施設も併設した大森山公園の拠点となるものです。

40年の節目を終え、もう一歩前進しようと頑張っている大森山動物園を今後ともあたたかく見守ってください。どうぞよろしくお願いします。



Challenge!

ゾウのエサやり体験スポット ゾウと はなスポット

魅せる

飼育展示担当 西方 理

昨年8月から運用開始した「ゾウとはなスポット」は、いつでもお客さまがゾウにエサやりができ大変好評です。

2012年4月からゾウ室内展示場へお客さまに入ってもらい、飼育員立ち会いのもと時間数量限定でエサやり体験を実施し好評でした。そこで、飼育員が立ち会わなくとも安全が確保できるシェルターのような施設をつくれれば、もっと多くのお客さまがゾウへのエサやりを楽しめるだろうと考えました。ゾウは体も大きく力の強い動物です。そのゾウがエサを取れるまで近づけるが壊されないような安全な施設をつくらなければなりません。ゾウとの距離をどうするか?どのような素材を使えば良いか?園内協議、実地検証を重ねました。その結果、ゾウとの距離は2.3mとしました。ゾウは鼻先でしか触ることはできず、強い力をかけることはできません。ゾウと接する部分の素材はポリカーボネートに決定しました。ポリカーボネートはガラスの200倍の強度があり、ゾウの鼻でたたかれても割れることはありません。設置場所はプール横のモート上部と決まりました。7月に完成し、8月から運用を開始しました。お客さまは販売機からエサを購入し、直径4cmの穴からゾウへエサを与えます。運用前はゾウがエサを要求し施設をたたくのではないかと不安がありました。しかし、ゾウは鼻先でエサを探るのみで施設への攻撃もありませんでした。小さい子どもでも怖がることなくエサやりできています。「こんなに近くでエサをやるなんてすごい!」というお客さまの声も聞かれました。今後は、この施設を活かし、今まで以上にゾウの魅力を伝えられるようなサービスが展開できればと考えています。



挑戦

特集2

Challenge!

キリンのための飼育管理 エンリッチメント大賞2013受賞

豊かに
する

飼育展示担当 柴田 典弘

昨年、本園のキリンの飼育管理が、エンリッチメント大賞2013を受賞しました。飼育下での様々な問題解決のために選択したいくつかの手法を評価されたことは、動物の飼育に携わる者として大変栄誉なことです。この受賞にはこれまで飼育してきたキリンが大きく関わっています。

私は2011年4月、9年ぶりにキリン担当に復帰しました。以前最後に担当していた個体は物語にもなった「義足のキリンたいよう」。当時は、怪我をしたたいようの前に何もできない歯がゆさに震える毎日でしたが、このことがキリンの飼育のあり方について考え始めるきっかけとなりました。「何もできない」ではなく、人との絆を深め、事故を限りなくゼロに近づける努力を惜しまないこと。さらには「ゾウと同等の健康管理の必要性」を強く感じ、以下のことを実践しました。「可能な限りストレスを与えない飼育管理」、本来の主食である「枝葉を多給する努力」、そして「ハズバンドリー・トレーニング」の導入です。

キリン担当に復帰した時、ジュン(故オス18歳)の前肢は明らかな過長蹄(蹄が伸びすぎた状態)で、少しずつ関節に影響を及ぼしていました。直ちに触ることから始め、順調に馴致は進んでいましたが、残念ながら削蹄することができないままジュンは6月に亡くなってしまいました。ようやく削ることができたのは死して横たわった後。しかし、後悔だけではありません。ジュンは「キリンの蹄が柔らかいこと」を教えてくれ、ヤスリによるケアが可能であると確信しました。また、歯の著しい摩耗も確認され、エサのあり方も深く考えさせられました。ですが死を悲しみ落ち込む暇はありません。過去のキリンたちが今飼育している個体に対しどう接すべきかを示してくれたことで、キリン飼育担当者としてすべきことは「行動」でした。早速蹄のケアについての情報収集をする中で出会った他園の技術者に指導してもらいながら、トレーニングの勉強、手探りでの実践を開始。想定を超えるスピードでトレーニングの成果が現れ、今では飼育しているオス、メスの蹄のケアの他、メスのリンリン(8歳)は定期採血もできるようになり、これまで2年ほど継続しています。



キリンのトレーニング風景

2013年12月7日、東京大学でエンリッチメント大賞の受賞式が行われ、受賞者講演で本園の取り組みを発表しました。授賞式に参加して思いを新たにすることは、これからも前を向いて行動し続けることの必要性。全ては動物たちのために、全力で取り組み続けることをお約束します。

※ハズバンドリー・トレーニング 動物自らが、採血・検温・蹄の手入れ等、健康管理に必要な動作をとるようにするためのトレーニング。

Challenge!

ツキノワグマの冬眠研究 冬眠時のクマの 体温を探る

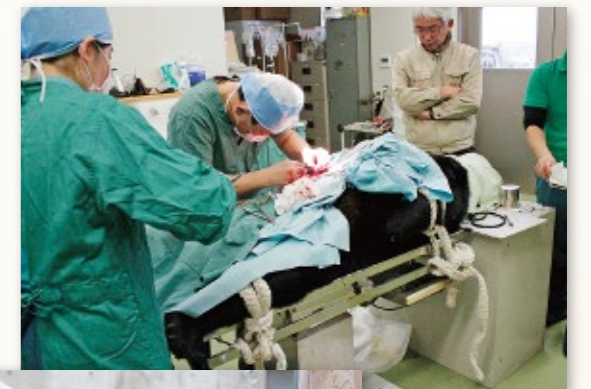
解き
明かす

飼育展示担当 獣医師 川本 朋代

雪に埋もれエサの確保が難しくなる寒い冬、活動を鈍らせて停止することで、最低限のエネルギーで生き残りをかけようとする動物がいます。日本産小動物、コウモリや齧歯類(ネズミの仲間)のヤマメなどは、体温を外気温並みに下げ活動をほぼ完全に停止してしまいます。

秋田の動物園では、クマの冬眠を探ろうとずっと以前からツキノワグマを冬眠させていました。野生と同じように外気温が下がる前に栄養価の高いエサをたくさん食べさせ、雪が降り出し、外気温がぐっと下がる12月中旬頃に寝室にわらを投入し、エサを少しずつ減らしていくと、クマは冬眠に入ります。しかし、大型動物であるクマは冬眠と言っても、完全に活動を停止させる状態まで体温を下げていないようです。「ようです」と表現するのは、はっきり分かっていないからです。

全くエサを食べずに4ヶ月近く冬眠するクマたちの代謝や生理的变化がどうなっているか、これまでほとんど分かっていませんでした。相手は猛獣、簡単に体温を計る方法はこれまでありませんでした。そんなとき、岩手大学(大学院農学研究科動物科学専攻)との共同研究の話が持ち上がり、体温測定モジュールを体内に埋め込み、体温測定を試してみようということになりました。手術で体温計を腹腔内に埋め込み、そこから電波で送られた体温を測定しようというものです。手術は成功し、実際に送られてくるデータを見たとき、体温というデータから動物の体内をのぞいているような思いでした。残念ながら機械のトラブルで手術後20時間までしかデータを得ることができませんでしたが、冬眠のクマを知る新たな挑戦は、ひとまず大きな一歩を踏み出したと言って良いでしょう。



手術の様子



体温測定したクマの「糞」

埋め込んだモジュール

飼育レポート

待ちに待った 赤ちゃん誕生!!

飼育展示担当 堀籠 麻子

昨年6月26日、ユウタ(オス)と陸(メス)の間に待望のメスの赤ちゃん「ゆり」が生まれました。

レッサーパンダは産箱の中で母親のみが仔を外部から隠しながら育て、母親以外の臭いがつくことを極端に嫌います。担当の私ですら姿は確認できず、産箱から聞こえる「ピー」という鳴き声を聞いて生存確認します。生まれたその日は鳴き声を聞く度にうれしくて。

しかし、喜びはつかの間。一気に不安が込み上げてきます。なぜか？陸お母さんは過去に2度の出産を経験していますが、どちらも育てていません。(今回も育てないかもしれない。)一度、放棄するとクセになるため、取り上げて人工哺育にするか、そのまま任せてみるかの決断を迫られました。通常であれば取り上げると思いますが、陸と長く付き合った私の勳で、陸に任せることにしました。授乳しなければ仔は生きられず、レッサーパンダの場合、その期間は1週間が目安だといわれています。毎日、鳴き声や給餌する時に陸の乳房をチェックするなどでき



31日齢(7月27日)



ゆり(左)と母親の陸(右)

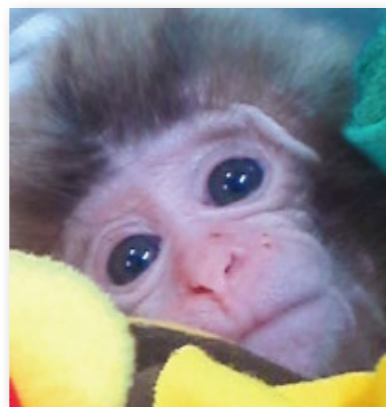
ることはなんでもやりました。

不安で仕方なかった仔も今では大きく育ち、体重4kgを越えました。一人っ子のせいか育ち方がとても早いです。

1月からは陸お母さんと一緒だった寝室も別々になり、一人で寒そうに寝ています。外でもナナおばあちゃんと一緒にいる練習をしています。ナナは一人でのんびりしているのが好きのため「ゆり」が走り寄ると逃げてしまいます。それでも何回も練習すると遠かった距離が少しずつ近くなってきました。「ゆり」はナナに少し気を遣い、ナナも少しずつ「ゆり」が近づくことを許している。母親以外の個体に触れることで徐々に大人になっているのを見ていて微笑ましく思います。



友(左)とユウ(右)



3日齢(6月4日)

師と話し合って決めました。

現在は、11月末頃発情期の闘争に巻き込まれ怪我をして治療した仔ザル3頭をユウと同居させて4頭で暮らしています。友達になって日の当たる場所に向かい幸せになって欲しいと願いを込め、この3頭に陽向(オス)、友(メス)、幸(メス)と名付けました。最初は怖がっていた3頭も今はユウと一緒にエサを食べ仲良く暮らしています。

春の暖かくなる頃には、仲間と一緒に群れへ戻って欲しいと願っています。サル山内を元気に走り回るユウの姿を、そしてつかは母親になって子育てしている姿を見るのが楽しみです。

ニホンザルの ユウ

飼育展示担当 斎藤 勇

毎年春から夏頃にかけサル山では8~10頭位の仔ザルが生まれています。2013年は10頭生まれ、そのなかの1頭メスのユウは育児放棄でサル山内に放置され、人工哺育で育ちました。

人間に育てられたこの子は、他の仔ザルたちと違い群れのマナーや上下関係などを知らず、このまま大きくなってからサル山に戻しても生きていくのが難しいことから、他のサルに馴れさせ、しぐさを見て覚えさせるために生後5ヶ月位からお見合いをさせています。

このお見合いは、人工飼育のサルを群れに戻すことは全国的に成功率が低いこともあり、今できる事をしてあげようと獣医

フラミンゴ 繁殖への挑戦

飼育展示担当 櫻庭 美千代



親からフラミンゴミルクをもらうヒナ



14日齢(9月21日)

今年はフラミンゴの再繁殖にチャレンジして8年目になります。2011年にヨーロッパフラミンゴ1羽、2012年にチリーフラミンゴ1羽が生まれました。

今年度は念願の2種類が生まれました。8月にヨーロッパフラミンゴ2羽、9月にチリーフラミンゴ1羽の全部で3羽が生まれ、順調に育っています。

昨年7月に1組のカップルがすり鉢を引っ繰り返したような土の山で産卵し抱き始めると、他のカップルたちは「なにになに？卵？産んだの？」と興味津々で覗きます。すると、まだ卵を産んでいない10羽近くのフラミンゴが巣を囲み、卵を抱いている親はとても迷惑そうにしていました。フラミンゴは1組が卵を産むと「私たちも!!」と言うようにその隣、さらにその隣と連鎖して巣も卵も増えていきます。その数日後、予想通り隣に卵を産んだカップルがいました。3週間後には巣が5個並び、それぞれの卵を大事そうに2羽交代で温めています。順調に進むと30日ほどでヒナは生まれます。

ある日、一番端の巣で温めていたヨーロッパフラミンゴのカップルが、途中で巣から離れ、卵だけが残ってしまいました。その卵は順調にいけばヒナが孵る卵です。でも親がいなければ…と困っていると、無精卵(ヒナが孵らない卵)しか産まないチリーフラミンゴのカップルが卵を産んだばかりでした。このカップルなら借り親としてちゃんと育てるだろうと思ひ、預けることにしました。卵を預けて次の日、ヒナは無事に生まれました。種類は違いますが、隔たりなく本当の自分の子どもとして、しっかりと抱き、ミルクを飲ませていました。大事そうに見守るチリーフラミンゴのカップルを見たときには本当に安心しました。

今年度は3組の親が子育てに奮闘しています。体はもう大人のように大きくなって、ミルクが欲しくて、雪の中でも親を追いかけ回す子どももいます。2014年はもっとたくさんの親子が見られるように、繁殖の手助けを頑張りたいと思います。

動物病院から

初めての 吹き矢

獣医師 川本 朋代



アカカンガルーのモモタロウがカンガルー病にかかったのは10月のことでした。この病気は名前の通り、カンガルーに特有の病気で顔が腫れることが特徴です。早期に治療すれば予後が良いのですが、万一手遅れになると死に至る恐ろしい病気です。治すには抗生剤を毎日打つことが肝心です。

けれど相手は動物です。治すには注射を打たなきゃと言っても言うことをききません。しかも、メスや子どもなら捕まえて治療ができるのですが今回の相手はオスのモモタロウです。下手するとこ

っちがパンチやらキックやらでノックアウトされます。

そこで登場するのが吹き矢です。改造して吹き矢にした注射器に薬を入れ、それを打ち込むのです。その日から毎日吹き矢での治療が始まりました。

獣医1年目の私は吹き矢など当然打ったことありません。最初は先輩獣医が打っているのを横で見ているのですが、遂に吹き矢デビューの日がきました。

その日は胃の痛む思いでした。間違っても変な所にあたったら、他のカンガルーにあたったらと不安はつきません。ですが本番に強いタイプだと言いつつ、いざ出陣しました。

カンガルー舎に行くと、感づいたモモタロウはぴょんぴょんと動き回ります。けれど、じっとタイミングをうかがっていると動きがとまる瞬間がありました。すかさず吹き矢を打つと、見事モモタロウの腿にあたりました。

こうして吹き矢が功をなし、モモタロウの顔の腫れはなくなりました。今度は是非見に来てください。

3園館の連携について

飼育展示担当 主席主査 宇佐美 均

2013年9月1日、山形県の鶴岡市立加茂水族館、秋田県の男鹿水族館GAO、秋田市大森山動物園の各園館長により、3園館連携協定書への署名式が行われました。



左から 村上加茂水族館長、小松大森山動物園長、千葉男鹿水族館長

これは、東北の日本海に面した地域にある動物展示施設が連携し、各園館の利用促進と地域の活性化に寄与することを目的に行われたものです。具体的には、それぞれの園館に専用のPRコーナーを設けたりホームページを活用した情報発信、スタンプラリーなどのイベントも実施しました。

2014年には、加茂水族館のリニューアルオープン、男鹿水族館GAOの10周年記念、大森山動物園のビジターセンターオープンなど、各園館で予定されている記念行事に参加し、3園館の見どころや特徴をPRするとともに、周辺地域の魅力情報の発信も行います。また、水族館で動物園を体験できる「お出かけ動物園」などのイベントも計画し、相互協力により積極的に取り組むこととしています。

できる事から少しずつではありますが、主役である動物たちと東北日本海の無限大の魅力を少しでも多く皆様に伝えていきたいと思えます。

「どうぶつ学ぼーど」について

飼育展示担当 風登 百愛

皆さんは園内にある飼育員の手書きの情報板をご覧になったことがありますか？

実は、その情報板が今年の4月から一部新しくなりました。今日はその新しくなった情報板について紹介したいと思います。



園内にはいろいろな動物についての解説板や情報板がありますが、動物についての学術的な解説板は詳しく書かれているものの、内容がやや難しいこともあり、新たな情報板を作ることになりました。その内容としては動物の特徴、体のしくみ、生態などで「この動物のここを知って欲しい!」という情報を盛り込み、動物に関して楽しく学んでもらえるような内容にすることを目指して、各担当が知恵を絞って制作しました。基本は全て手書きで、この動物のここを見て欲しい、知って欲しいという熱い飼育担当者の思いが込められています。

今年はゾウ、キリン、チンパンジーなど、それぞれの動物の展示場の15カ所に設置しました。3年計画で園内ほぼ全ての動物について作成予定ですので、動物園にお越しの際は是非、「どうぶつ学ぼーど」をチェックしてみてください!

7月20日(土)

開園40周年を記念し、株式会社秋田銀行様からオモリンの幟40本が寄贈され、贈呈式が行われました。また、イメージキャラクターの「オモリン」が初めて登場しました。



7月27日(土)・28日(日)

第36回親子のふれあい写生大会を開催しました。提出された496点のうち106点の作品が入賞し、入賞者は9月1日の開園40周年を祝う会で表彰されました。



8月1日(木)・2日(金)

第39回サマースクールを実施し、2日間で56名の方が1日飼育員として飼育作業を行いました。



8月14日(水)~17日(土)

夏の人気イベント「夜の動物園」を開催しました。開催期間中は天気にも恵まれ約1万5千人のお客さまにご来園いただきました。



イベントレポート

8月31日(土)

開園40周年を祝う会前日前夜祭を開催しました。雨のため中止となったイベントもありましたが、会場の大森山公園では、動物ふれあいイベントなどが行われた他、メインイベントとなる「森と動物の音楽祭」も開催され、900名の方が来場しました。



9月1日(日)

「秋田市大森山動物園開園40周年を祝う会」が大森山動物園ピクニック広場で開催されました。式典ではボランティア活動団体などに感謝状が贈呈された他、市内の小学生が書いた「大森山動物園の夢と未来を語る」標語と作文の発表も行われました。また、市内の小学生による歌や踊りが披露され、来場した約870名の方々に開園40周年をお祝いしていただきました。式典終了後も会場では音楽ライブやショーなどが行われ、1日を通して開園40周年を祝うイベントで盛り上がりました。

10月5日(土)・6日(日)

秋の恒例イベント「秋の動物ふれあいフェスティバル」を開催しました。「食欲の秋・動物の餌、見て・ふれて・あげてみよう!」と題し、動物の「食」をテーマにしたイベントを行いました。



11月23日(土)

11月22日の「いい夫婦の日」にちなみ、夫婦限定のイベントを開催しました。14組の参加者は動物園内を周りながら夫婦水入らずのひと時を楽しんでいました。



12月1日(日)

2013年の通常開園最終日、動物とお客さまへの感謝を込めて「さよなら感謝祭」を開催しました。亡くなった動物を慰霊する「慰霊祭」では、浜田小学校の児童3名が動物たちの思い出を書いた作文を発表してくれました。他にも無料エサやり体験やもちつき大会など多くのイベントが行われ、開園40周年を締めくくるにふさわしい1日となりました。



12月4日(水)

開園40周年を盛り上げようと立ち上がった「秋田市大森山動物園開園40周年記念事業実行委員会」の解散式が行われました。実行委員会は8月31日と9月1日のイベント開催を中心に、開園40周年記念事業をサポートし盛り上げていただきました。

12月22日(日)
1月25日(土)
2月1日(土)

秋田市の中心市街地活性化に一役買うため昨年12月からスタートした「冬の移動動物園」を今シーズンも実施しました。12月22日には、クリスマス前ということもあり、トナカイとサンタクロースが登場。今年の干支(午)であるポニーにも来場者の人気が集まりました。



1月4日(土)~
2月23日(日)の
土日祝日

冬の特別開園「雪の動物園」を開催しました。「動物のお散歩タイム」や冬ごもり中のツキノワグマの様子をモニターで観察できる雪の動物園ならではのイベントに加え、動物の名前を漢字で書く「書きZOOめ」やペンギンが来園者の希望をかなえるイベントも実施しました。



正面ゲートが
新しくなって快適に!

ZOO
ニュース



大屋根ビジターセンター(仮称) 2014年夏 完成予定!

現在改修工事をしている正面ゲートは、2014年夏にリニューアルします。休憩スペースが設けられ、休憩スペースを含む一部の施設は入園者以外の方も気軽に利用できるようになります。新しい大森山動物園の顔となる正面ゲートをお楽しみに。



飼育日誌

7/6 **ホンドフクロウ** フクジロウ♂ 来園者のタッチングに終始落ち着いていた。

7/7 **アミメキリン** カンタ♂ 盛んに追尾行動。マウント試行行動も確認。

7/12 **シバヤギ** 6/25出生個体の命名 ♂:丞丞(3.8kg)、♀:ライラ(3.0kg)。

7/13 **アフリカタゲガミヤマアラシ** エビチリ♂がリュウ♂に攻撃され、背中、尾の針が抜け落ちる。

7/17 **カリフォルニアアシカ** スミコ♀ 上半身の換毛進み、毛並みもそろう。

7/19 **ニホンコウノトリ** ゴウ♀ 体重3.26kg。貧血。削瘦。動作緩慢。

7/20 **ホンドタヌキ** ポン♂、ポコ♀ 旧アライグマ舎に移動し、展示開始。

7/27 **モモアカノスリ** アンディー♂ ふれあいと腕載せ体験。

7/28 **ラマ** 全頭に柏の葉給餌。採食良好。

8/3 **アフリカゾウ** エサやり体験スポットでエサ販売開始。

8/6 **カナダヤマアラシ** 日中、展示場に散水、水柱設置。

サンショクキムネオオハシ ケヅメリクガメの甲羅に乗って遊んでいた。

8/7 **ジャンボウサギ** ジャンボウサギ舎完成。屋内外の展示可能になる。

8/8 **モルモット** 全頭体重測定(614~1,102g)。

8/10 **ノドジロオマキザル** スイカを床に叩き落とし、全頭が採食。

8/11 **アライグマ** No.2666♂ 小動物舎に移動し、展示再開。

ミーアキャット 新規個体群(♂1、♀2)の展示開始。

8/15 **ボリビアリスザル** ゲン♂ 屋外展示場で群れと同居開始。

8/16 **ミニブタ** とん平43.0kg、とん吉53.2kg。落ち着いて園内散歩。

8/21 **フタコブラクダ** 来来♀ 園路に出し、数歩歩かせることに成功。

8/22 **シュバシコウ** ♀ クジャク展示場内に移動。終始リラックス。

ピューマ ピュータ♂、ピュー子♀ 午前中、頻りに交尾。

8/23 **ホオアカトキ** ヒナ 後頭部羽毛が伸びてきた。

ヨーロッパフラミンゴ 8/9出生個体は、「かまぼこ」と命名。

8/25 **ケヅメリクガメ** ゴダイ♂ 終日屋外展示。活発に歩き回る。

8/28 **ワピチ** ♀ 雄叫びと角を突き刺す行動が目立ってきた。

8/30 **ジャンボウサギ** ユキ出産個体12羽(3月生)の命名。

9/2 **ハクビシン** 全頭が折り重なって木の上で休んでいた。

9/6 **シロフクロウ** シロ♂と新規個体(コロン♀、モコ♀)が同居開始。

9/7 **ダイアナモンキー** ライム♀ フェンスにしがみついた状態で急死。

9/14 **アムールトラ** ヒロシ♂ 遊具で展示場内を走り回っていた。

9/16 **コモンマーモセット** 2頭出生。イツキ♂に背負われ、体は乾いていた。

9/17 **カピバラ** レン♂とサツキ♀を同居。複数回交尾。

9/23 **シバヤギ** 丞丞(♂、3月齢) 本日から親子群と隔離して飼育。

シンリンオオカミ シン♂、ジュディー♀ 冬毛が生え始めている。

9/25 **コエヨシドリ** ♂ 活発に長鳴きする。

ポニー クリン去勢 朝、寝室内で死亡(20歳、肝硬変)。

9/28 **ゼニタナゴ** 塩曳湯から採捕したゼニタナゴ3、シナイ

シナイモツゴ モツゴ7を水槽展示。

10/9 **アカカンガル** トマコ♀の育児嚢から子か顔を出していた。

10/16 **ファンボルトペンギン** 人工育雛個体2羽 園内散歩。

10/17 **ヨーロッパフラミンゴ** かまぼこ 体色が真っ白になり、よく目立つ。

10/22 全国キリン勉強会開催。トレーニング実演。

10/23 **チンパンジー** 全頭にカボチャを給餌。嗜好性良好。

10/29 **ワタボウシバンシェ** ランディ♂とコロナ♀を同居。直後に複数回交尾。

10/30 **ニホンザル** 全頭の個体識別作業(♂29、♀48)。

10/31 **ミーアキャット** サキ♀ ぼかぼかハウスで仰向けに寝ていた。

11/1 鳥インフルエンザ、豚インフルエンザの監視体制スタート。

11/3 **レッサーパンダ** 6/26出生個体♀の命名式。愛称は「ゆり」。

11/8 **ライオン** ラガー♂ よく遠吠えする。

11/11 **ニホンリス** 脱出防止のため、リスの木出入口を封鎖。

11/17 **キョン** ソウソウ♀ コンパネを使用し、体重測定の練習。

11/24 **ニホンザル** ユウ♀ 4頭(♂1、♀3)で同居生活開始。

11/30 **アミメキリン** カンタ♂ 左後肢跛行。負重を嫌う。

12/1 **トナカイ** サクラ♀ 来園者と記念撮影会。大変好評であった。

12/3 **ヨーロッパフラミンゴ** 晴天のため、屋外展示。水浴び個体多数。

チリーフラミンゴ

12/4 **アカカンガル** 10/9出生個体名は「ミロ」。近づくや育児嚢の中に潜った。

12/7 **アメリカビーバー** マリオ♂ 削瘦し、背骨、腰骨が浮き出ている。

コールダック 新規個体群 おとうさん♂とウコッケイをしきりに攻撃。

ブロンズトキ 右緑左緑♂ 右翼が下がり背部脱羽。

12/10 **アカコンゴウインコ** メレブ♀ ピースしながら「おはよう」をしゃべる。

12/12 **クロヅル** 右趾から出血。歩行状態は良好。

12/14 **トナカイ** マオ♂ 右側落角。昨年より2か月早い。

12/15 **ミニブタ** とん平 てんかん発作。夕方、落ち着く。

12/16 **ツキノワグマ** 入舎し、総♂、ルビー♀、ルイ♀の冬眠確認。

12/17 **ホンドキツネ** 新規個体♂を小動物舎に移動し、♀と同居。

12/21 **ニホンイヌワシ** 信濃♂、たつこ♀ 日増しに鳴き交わしが多くなっている。

12/23 **ニホンアナグマ** 冬ごもりに入る。巣箱をのぞくと鼻を出してきた。

12/25 **コクチョウ** ランボー♂ キーパーに勢いよく向かってくる。

12/28 **フタコブラクダ** 楽楽♂ 尿を着けた尾を背中方向に振り上げていた。

12/29 **ボアコンストリクター** 眼珠が白濁から黒色に変化してきた。

12/30 **モモイロペリカン** 交尾、巣材を集める営巣行動を確認。

12/31 **マーコール** 若♂弟 終日、♀の追尾・首舐め行動あり。

😊 お客さまの声

7/2 リスの木にいつ入室しても、リスの姿が見えない。いつでも見られるようにしてほしい。

7/7 サンショクキムネオオハシがケヅメリクガメに乗る光景を初めて見た来園者。「とても癒されます。今度は友達も誘って来ます。」

7/21 アカコンゴウインコに「こんにちは。」と言いつ返された男児の母親。「この子はインコが大好きで、今日はとても感動しました。」

7/27 シンリンオオカミのまんまタイム。メロンを食べる光景に「肉食なのに果物を食べるのは不思議。皮ごと食べたり、食べなかったり個体差があっておもしろい。」

8/13 親子連れの男性。「動物が見やすくて、いい動物園ですね。ヒヨコを抱っこできてよかった。」

8/28 アシカの点眼トレーニングを見ていた家族連れ。母親が子どもに「アシカさんみたいに頑張ろうね。」

9/6 車椅子利用の男性。「園内は急な坂道が多く、車椅子利用者にはづらい。」

9/8 東京からの来園者。「ここは動物との距離が近くて、いいですね。」

9/29 ゲート改修工事にとまどった来園者。「出入口がわかりにくい。」

11/3 チンパンジーのお誕生日会参加者。「カードをいっぱいもらえてうれしかった。」

かたばた通信 [編集後記]

今回は40周年記念号として発行したため、2013年の大森山動物園の出来事は号の12ページで紹介しなければなりません。昨年は開園40周年を始め、様々な出来事がありました。記録として残すべきこと、一般に広く伝えたいこと、職員それぞれの思いが詰まった出来事がたくさんあります。今回掲載した内容は、数ある中から選びに選び抜いたものです。開園40周年を迎えた1年間を振り返りながら、これからの動物園がもっと楽しくなるような1冊になればと思います。(保坂)

